

事務事業名	障がい者福祉タクシー助成事業				担当	健康福祉部 社会福祉課 障害者福祉係		
政策名	C	思いやりと安心に満ちたみんな元気なまちづくり			増補版施策名			
施策名	3	障がい者の自立と社会参加の支援			■ 実施計画上の主要事業			
関連個別計画	真岡市地域福祉計画 真岡市障害者計画				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返（開始年度 昭和60 年度～） ☐ 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
法令根拠	真岡市障害者タクシー事業実施要綱							
予算科目	1. 一般会計	3. 民生費	1. 社会福祉費	1. 社会福祉総務費				
事業概要	市内在住の重度障がい者に対し、タクシー利用助成券を発行し基本料金を助成する。 身体障害者手帳 1・2 級所持者、療育手帳（知的障害）A 1・A 2 所持者、精神障害者福祉手帳 1・2 級所持者 1 人あたり月 4 枚交付（年 4 8 枚まで）							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動） 30年度実績 対象者からの申請を受け利用券を交付する。 利用券の作成→交付→利用→請求→支払 31年度計画 前年度と同様				⑤ 活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移 <table border="1"><thead><tr><th>名称</th><th>単位</th><th>27 年度(実績)</th><th>28 年度(実績)</th><th>29 年度(実績)</th><th>30 年度(実績)</th><th>31 年度(見込)</th></tr></thead><tbody><tr><td>ア 交付者数</td><td>人</td><td>632</td><td>652</td><td>670</td><td>679</td><td>692</td></tr><tr><td>イ 交付枚数</td><td>枚</td><td>27,708</td><td>28,596</td><td>29,720</td><td>30,300</td><td>30,906</td></tr><tr><td>ウ タクシー事業者数</td><td>社</td><td>5</td><td>5</td><td>6</td><td>6</td><td>6</td></tr><tr><td>エ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>オ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>							名称	単位	27 年度(実績)	28 年度(実績)	29 年度(実績)	30 年度(実績)	31 年度(見込)	ア 交付者数	人	632	652	670	679	692	イ 交付枚数	枚	27,708	28,596	29,720	30,300	30,906	ウ タクシー事業者数	社	5	5	6	6	6	エ							オ																																																	
名称	単位	27 年度(実績)	28 年度(実績)	29 年度(実績)	30 年度(実績)	31 年度(見込)																																																																																									
ア 交付者数	人	632	652	670	679	692																																																																																									
イ 交付枚数	枚	27,708	28,596	29,720	30,300	30,906																																																																																									
ウ タクシー事業者数	社	5	5	6	6	6																																																																																									
エ																																																																																															
オ																																																																																															
② 対象（誰、何を対象にしているのか） *人や自然資源等 重度心身障がい者・重度精神障がい者・重度療育手帳所持者				⑥ 対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移 <table border="1"><thead><tr><th>名称</th><th>単位</th><th>27 年度(実績)</th><th>28 年度(実績)</th><th>29 年度(実績)</th><th>30 年度(実績)</th><th>31 年度(見込)</th></tr></thead><tbody><tr><td>ア 重度心身障がい者・重度精神障がい者・重度療育手帳所持者数</td><td>人</td><td>1,841</td><td>1,826</td><td>1,883</td><td>1,835</td><td>1,872</td></tr><tr><td>イ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>ウ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>エ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>オ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>							名称	単位	27 年度(実績)	28 年度(実績)	29 年度(実績)	30 年度(実績)	31 年度(見込)	ア 重度心身障がい者・重度精神障がい者・重度療育手帳所持者数	人	1,841	1,826	1,883	1,835	1,872	イ							ウ							エ							オ																																																	
名称	単位	27 年度(実績)	28 年度(実績)	29 年度(実績)	30 年度(実績)	31 年度(見込)																																																																																									
ア 重度心身障がい者・重度精神障がい者・重度療育手帳所持者数	人	1,841	1,826	1,883	1,835	1,872																																																																																									
イ																																																																																															
ウ																																																																																															
エ																																																																																															
オ																																																																																															
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 障がい者世帯の交通の便を確保する。 障がい者世帯の外出を支援する。				⑦ 成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移 <table border="1"><thead><tr><th>名称</th><th>単位</th><th>27 年度(実績)</th><th>28 年度(実績)</th><th>29 年度(実績)</th><th>30 年度(実績)</th><th>31 年度(見込)</th></tr></thead><tbody><tr><td>ア 交付割合（交付者数／対象者数）</td><td>%</td><td>34.3</td><td>35.7</td><td>35.6</td><td>37</td><td>37</td></tr><tr><td>イ 利用枚数</td><td>枚</td><td>14,239</td><td>14,396</td><td>14,408</td><td>14,062</td><td>14,343</td></tr><tr><td>ウ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>エ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>オ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>							名称	単位	27 年度(実績)	28 年度(実績)	29 年度(実績)	30 年度(実績)	31 年度(見込)	ア 交付割合（交付者数／対象者数）	%	34.3	35.7	35.6	37	37	イ 利用枚数	枚	14,239	14,396	14,408	14,062	14,343	ウ							エ							オ																																																	
名称	単位	27 年度(実績)	28 年度(実績)	29 年度(実績)	30 年度(実績)	31 年度(見込)																																																																																									
ア 交付割合（交付者数／対象者数）	%	34.3	35.7	35.6	37	37																																																																																									
イ 利用枚数	枚	14,239	14,396	14,408	14,062	14,343																																																																																									
ウ																																																																																															
エ																																																																																															
オ																																																																																															
④ 結果（どんな結果（上位施策）に結びつけるのか） 精神的、身体的、経済的に自立してもらう。 積極的に社会参加してもらう。				⑧ 上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移 <table border="1"><thead><tr><th>名称</th><th>単位</th><th>27 年度(実績)</th><th>28 年度(実績)</th><th>29 年度(実績)</th><th>30 年度(実績)</th><th>31 年度(見込)</th></tr></thead><tbody><tr><td>ア 利用割合（利用枚数／交付枚数）</td><td>%</td><td>51.4</td><td>50.3</td><td>48.5</td><td>46.4</td><td>46.4</td></tr><tr><td>イ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>ウ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>エ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>オ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>							名称	単位	27 年度(実績)	28 年度(実績)	29 年度(実績)	30 年度(実績)	31 年度(見込)	ア 利用割合（利用枚数／交付枚数）	%	51.4	50.3	48.5	46.4	46.4	イ							ウ							エ							オ																																																	
名称	単位	27 年度(実績)	28 年度(実績)	29 年度(実績)	30 年度(実績)	31 年度(見込)																																																																																									
ア 利用割合（利用枚数／交付枚数）	%	51.4	50.3	48.5	46.4	46.4																																																																																									
イ																																																																																															
ウ																																																																																															
エ																																																																																															
オ																																																																																															
(2) 総事業費の推移 <table border="1"><thead><tr><th colspan="2"></th><th>単位</th><th>27 年度(実績)</th><th>28 年度(実績)</th><th>29 年度(実績)</th><th>30 年度(実績)</th><th>31 年度(見込)</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="10">投入量</td><td rowspan="6">事業費</td><td>財源内訳</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>国庫支出金</td><td>千円</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>県支出金</td><td>千円</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>地方債</td><td>千円</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>その他</td><td>千円</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>一般財源</td><td>千円</td><td>9,985</td><td>10,100</td><td>10,179</td><td>9,884</td><td>10,566</td></tr><tr><td colspan="2">事業費計（A）</td><td>千円</td><td>9,985</td><td>10,100</td><td>10,179</td><td>9,884</td><td>10,566</td></tr><tr><td rowspan="3">人件費</td><td>正規職員従事人数</td><td>人</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>延べ業務時間</td><td>時間</td><td>54</td><td>56</td><td>58</td><td>58</td><td>58</td></tr><tr><td>人件費計（B）</td><td>千円</td><td>226</td><td>233</td><td>241</td><td>242</td><td>242</td></tr><tr><td colspan="2">トータルコスト(A)+(B)</td><td>千円</td><td>10,211</td><td>10,333</td><td>10,420</td><td>10,126</td><td>10,808</td></tr></tbody></table>													単位	27 年度(実績)	28 年度(実績)	29 年度(実績)	30 年度(実績)	31 年度(見込)	投入量	事業費	財源内訳						国庫支出金	千円	0	0	0	0	県支出金	千円	0	0	0	0	地方債	千円	0	0	0	0	その他	千円	0	0	0	0	一般財源	千円	9,985	10,100	10,179	9,884	10,566	事業費計（A）		千円	9,985	10,100	10,179	9,884	10,566	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	延べ業務時間	時間	54	56	58	58	58	人件費計（B）	千円	226	233	241	242	242	トータルコスト(A)+(B)		千円	10,211	10,333	10,420	10,126	10,808
		単位	27 年度(実績)	28 年度(実績)	29 年度(実績)	30 年度(実績)	31 年度(見込)																																																																																								
投入量	事業費	財源内訳																																																																																													
		国庫支出金	千円	0	0	0	0																																																																																								
		県支出金	千円	0	0	0	0																																																																																								
		地方債	千円	0	0	0	0																																																																																								
		その他	千円	0	0	0	0																																																																																								
		一般財源	千円	9,985	10,100	10,179	9,884	10,566																																																																																							
	事業費計（A）		千円	9,985	10,100	10,179	9,884	10,566																																																																																							
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1																																																																																							
		延べ業務時間	時間	54	56	58	58	58																																																																																							
		人件費計（B）	千円	226	233	241	242	242																																																																																							
トータルコスト(A)+(B)		千円	10,211	10,333	10,420	10,126	10,808																																																																																								
(3) 事務事業の環境変化・市民意見等																																																																																															
① この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか。		市内のバス路線等の廃止などにより、障がい者の外出手段が限られたため、障がい者の社会参加を促進するためタクシー券を発行した。																																																																																													
② 事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは 5 年前と比べてどう変わったのか？		平成 17 年 4 月から、1 回当たりの利用可能枚数を 2 枚とした。 平成 23 年 11 月から、デマンドタクシーの実証運行が開始された。 平成 24 年 10 月から、コミュニティバスの実証運行が開始された。 平成 26 年 4 月から、デマンドタクシーとコミュニティバスの本格運行が開始された。 平成 29 年度から、契約しているタクシー事業所が 6 事業所になった。																																																																																													
③ この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？																																																																																															

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果（上位施策）に結びついているか？	☒ 結びついている ☐ 見直し余地がある 交通手段の支援事業であり、障がい者の自立と社会参加のしている支援に結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	☒ 妥当である ☐ 見直し余地がある 外出を促すことは、自立や社会参加につながるので、公共の関与は妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	☒ 適切である ☐ 対象を見直す必要がある ☐ 意図を見直す必要がある 重度心身障がい者、重度精神障がい者を対象としており、適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地はない ☐ 向上余地がある 対象世帯には十分周知をして、申請者全員に対して交付しているので、向上の余地はない。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☒ 影響がある ☐ 影響がない 障がい者の交通の便が確保できなくなる。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	☐ 類似事業がある（類似の事務事業名を記載） ☒ 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	☐ 他の事業と統合・連携ができる ☐ 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある 障がい者の自立と社会参加を促進するための事業であり、事業費削減の余地はない。
	⑧人件費（延べ業務時間）の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか（アウトソーシングなど）	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある 必要最小限の人員で対応しているので削除できない。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	☒ 公正・公平である ☐ 見直し余地がある 基準に該当する障がい者を全員対象としているため、公平・公正である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画） ☐ 廃止 ☐ 見直し（☐：目的妥当性 ☐：有効性 ☐：効率性 ☐：公平性） ☐ 統合 ☒ 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td style="background-image: linear-gradient(to bottom right, transparent 49%, black 49% 51%, black 51% 55%, transparent 55%); background-size: 200% 200%;"></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td style="background-image: linear-gradient(to bottom right, transparent 49%, black 49% 51%, black 51% 55%, transparent 55%); background-size: 200% 200%;"></td> <td style="background-image: linear-gradient(to bottom right, transparent 49%, black 49% 51%, black 51% 55%, transparent 55%); background-size: 200% 200%;"></td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○																			
	低下																					
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																						

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ☐ 記述説明不足(説明責任不充分) ☐ 評価内容が客観性を欠く ☒ 評価内容は客観的と言える		(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td style="border: 1px solid black;"></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td style="border: 1px solid black;"></td> <td style="border: 1px solid black;"></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
					コスト																		
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○																				
	低下																						
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																							
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的絞込み ☐ 目的拡充 ☐ 事業統廃合 ☐ 事業のやり方改善 ☐ 予算削減 ☐ 予算増大 ☒ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																						